

令和元年度第3回花巻市立図書館協議会 会議録

1 開催日時

令和2年2月26日（水） 午前10時00分～午前11時50分

2 開催場所

花巻市立花巻図書館 会議室

3 出席者

（1）委員（9名）

菊池一英委員、阿部久幸委員、市川浜委員、門馬優子委員、高橋則子委員、
熊谷恵委員、坂本知彌委員、佐藤三恵子委員、白藤祐三委員

（2）事務局（9名）

市川生涯学習部長、藤原生涯学習課長、梅原花巻図書館長、
小原大迫図書館長、火石石鳥谷図書館長、菊池東和図書館長、
久保田花巻図書館副館長、伊藤花巻図書館業務係長、黒澤石鳥谷図書館主査

（3）アドバイザー

早川光彦富士大学教授

4 欠席者

1名（佐々木さつき委員）

5 傍聴人

4名

6 議題等（議事録）

◎会議成立の報告（久保田花巻図書館副館長）

・委員10名中9名出席。出席委員数が構成委員の過半数を超えているので、花巻市立図書館協議会規則第7条により、本会議が成立することを報告。

1 開 会（久保田花巻図書館副館長）

2 あいさつ（坂本会長）

新型コロナウイルス感染症の予防対策で、不特定多数の人が集まるところでの

注意喚起がされていますが、これを本に置きかえると、やはり本も不特定多数の人が利用しますので、これから先いろいろなことを考えていかなければいけないと思います。その対策を急にはできないので、今から「どういうことができるのか」「どういうことをしなければいけないのか」ということも考えていただきたいと思います。今日は議題の中に新図書館の構想も含まれておりますので、しっかりと協議してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(○久保田花巻図書館副館長)

はい、ありがとうございます。それでは、協議会規則第6条により、会長が議長となりますので、よろしくお願いいたします。

(○坂本会長)

それでは早速議題に移りたいと思います。1番目の「令和元年度花巻市立図書館の事業実施状況等について」ご説明をお願いいたします。

3 議 題

(1) 令和元年度花巻市立図書館の事業実施状況等について

- ・令和元年度花巻市立図書館の事業実施状況について、(令和2年1月末までの実施状況を)花巻図書館から順番に各館が説明。

花巻：伊藤業務係長、大迫：小原館長、石鳥谷：火石館長、
東和：菊池館長

(質 疑)

(○坂本会長)

各館から説明をいただきました。これに関して、質問はございませんでしょうか。はい、門馬委員さん。

(○門馬委員)

4頁の花巻図書館で行った生涯学習課の事業で「ふれあい出前講座」についてミニシアター3回など全部で5回行っているようですが、どのような団体からの要望で開催されたのかお伺いします。

(○伊藤花巻図書館業務係長)

市内の10名以上の方が集まって開催する講座に出向くという形で行っております。講座は生涯学習課を通して申請していただき、日程を調整して行っているものです。団体としては、市民講座の受講者のOBの方々や有志の方々、また、今回は学校図書館のボランティアさんが、「こういう講座を受けたい」ということでお話しがありました。

ミニシアターは、やはり映画を見ることが好きな団体や地域の団体からお話しをいただいて、出向いている形です。

(○熊谷委員)

呼びかけではなく、自主的に申し込むという感じですか。

(○伊藤花巻図書館業務係長)

そうです。基本的には団体や市民の方から要望を受けて行うと伺っております。

(○坂本会長)

出前講座のメニューにありますよね。メニューをご覧になって申し込まれるのですね。

(○伊藤花巻図書館業務係長)

そうです。メニューの中に入れてさせていただいております。

(○門馬委員)

わかりました。

(○熊谷委員)

その時に、団体ではなくても、「こういう映画みたいよね。」とお友達など10人以上そろっていればいいのですか。

(○伊藤花巻図書館業務係長)

10名以上そろっていれば大丈夫です。

(○坂本会長)

是非いろいろな団体にアピールしていただきたいと思います。他にございませんでしょうか。それではご意見は。

議長席にいて、発言しにくいのですが、みんなでライブラリーの事業、9月14日だけ一桁の参加となっています。振り返ってみると花巻祭りの日でした。やはりそういうところは外していただいて、興味ある人皆が参加できるような、日程調整をしていただきたいと思いました。あとはございませんでしょうか。

(○門馬委員)

質問ではなく意見です。大迫図書館では、大迫高校生さんや小学生さんを巻き込んで、紙芝居活動をされているのですが、やはり大事な地方の高校の存在意義というのか、大いに地域と密接な関係で高校生達の力を引き出しているという点では、ほかの地域でも見習わなければならない、特筆すべき活動だと思いますので、どんどん取り上げていってほしいです。参加した高校生さんの話を聞いたところによりますと、有無を言わず着物を着せられて、ひな祭りの会場に行き紙芝居の活動に参加させていただいた。すごく思い出に残る活動だったのではないかと思います。大迫高校に通ったから、大迫高校生でなければできない活動だったと思いますので、頑張って続けて欲しいと思います。

(○坂本会長)

「たんぽぽの会」の高橋委員さんいかがでしょう。

(○高橋委員)

「たんぽぽの会」の高橋といいます。これは長年、平成18年、19年あたりからの活動でございまして、高校生が自分で作った紙芝居をみんなの前で読んでみようということで始まりました。今、着物を着せられてという話しがございましたが、実は美容師さんの仲間が、期間中に一日だけ無料で着物を着せてくれる日がありまして、そこに高校生に是非入ってもらったということで入ってもらいました。高校生は、毎年、男の子も着物を着せていただいて、(紙芝居を)読んで、写真を撮ったりして楽しんでいるようでございます。小学生は自分で法被をもってきて着るという形ですが、それぞれ楽しんでやっております。

(○坂本会長)

ありがとうございます。他にはございませんでしょうか。

またここにいてすみません。資料を見て連携が多かったなと思います。他の課との連携、それから学校との連携、そして図書館にだけいないで出かけていく、そのような積極的なところが、今回はすごく感じ取られました。農政課と連携したり、中学校の思いを受け入れて、それを形にしたり。いろいろな形の連携が繋がってよかったなと思っております。これからも、いろいろなところと連携して広く図書館の存在をアピールしてほしいと思っていますところ。

他にはございませんでしょうか。はい、白藤委員さん。

(○白藤委員)

学校連携事業とか、文化施設等連携企画とか、こういった企画は大事だと思います。図書館で待っているだけではなくて、他の機関・団体と連携して図書館の存在をアピールするなど、読書だけではなくて、積極的にそういった文化活動についても発信していけるような企画に、これからも取り組んでもらいたいと思います。今日は特に、このように小さいミニポスターですが、土沢神楽とか、あるいは野鳥の会との連携とか、こういうことによって一般の方々が、図書館に関心を持ってくれる、それから他のいろいろなグループや団体の活動にも関心を寄せるということで、非常に効果的だと思いますので、今後も積極的に取り組んでいただきたいと思います。

(○坂本会長)

はい、ありがとうございます。他にご意見はございませんでしょうか。

それでは議題の2番目に移らせていただきます。「令和2年度花巻市立図書館運営方針(案)について」ご説明をお願いいたします。

(2) 令和2年度花巻市立図書館運営方針(案)について

- ・令和2年度花巻市立図書館運営方針(案)について、基本方針、重点目標を梅原花巻図書館長が説明後、各館の重点事項、事業概要の説明を花巻図書館から順番に各館が説明。

花巻：梅原館長、伊藤業務係長、大迫：小原館長、石鳥谷：火石館長、
東和：菊池館長

(質 疑)

(○坂本会長)

新年度令和2年度の運営方針について、お話しをいただきました、これにつきまして質問、ご意見等ございましたらば、お願いいたします。はい、菊池委員さん。

(○菊池委員)

学校現場の者としての意見なのですが、先ほども他団体との連携というお話が出ましたが、特に学校現場との連携を考えたときに、公共図書館の方々が、図書の読み聞かせには来ていただけてますが、例えば学校図書館の図書の整理などのお手伝いをしてもらうことは活動の中でできるものなのでしょうか。といいますのは、学校現場にも図書担当はいるのですが、専門の先生がなかなか少ないですし、専門の先生でも、図書にピッタリついて整理するような時間等がどうしてもないのが実情です。地域コーディネーターさんがいる学校であれば、週に何日か頼み、子どもたちが本当に読書に親しめるような環境づくりをお願いすることができるのですが、それは本当に限られた学校でして、そのときに、例えば公共図書館の職員に定期的に来ていただいて、(図書を)整理してもらったり、あるいはポップづくりなど、いろいろなことを教えていただけたらすると、本当に助かるなという思いでいつもいるわけです。どの図書館も重点事項に子どもたちの読書活動の推進、それから小中学校との連携、学校図書館活動の支援という言葉はありますが、具体的にそういう活動ができるのでしょうか。

(○坂本会長)

この場に、石鳥谷の小学校の図書館で実際に整備に入った方がいらっしゃるのので、その例をお話しいただければと思います。佐藤(委員)さんとボランティアさんが、その時石鳥谷図書館にいらした菊池さんにお世話していただきながら整理して、石鳥谷小学校の図書館が見違えたということがありましたので。

(○菊池東和図書館長)

私が石鳥谷図書館にいたときだったのですが、夏休みを使いまして、PTAの方たちにご家族みんなできていただいて、100人ほどの子どもさんたちと、いらなくなった本の除籍と、分類ごとに本を並べる作業を一気に二日ほどでやってみ

たことがありました。ただ、そのあとの本の整理は、ボランティアさんたちが一年以上かけて、ずっと整理していったような形にはなりますが、時間をかけることはなかなかできないので、やはりPTAさんなど大勢で一氣にばっと時間を使って整理するのがよいと思います。あと図書館から時々、整備に行くというお話ですが、なかなか図書館としても忙しいので、毎月というのは無理かもしれませんが、何かの機会に、あるいは半年に一回など、できるかどうかをこちらでも検討が必要だと思います。図書館に大人の方たちが入るということは、子どもたちも大人の方たちから、いろいろなお話を聞くことができますので、とてもいいことだと思っておりますし、何回かできればいいかなと思いますが、これは、あくまでも私の意見です。

(○佐藤委員)

実際参加したボランティアとしては、私がボランティアを始めたときの小学校の図書室が、カビが生えて開かなくなった本や、リンゴの木箱みたいなものを落ちないようにすずらんテープで手すりにくくりつけて本棚に置いて、それが落ちたら子どもが骨折するような図書室で、本当に悲惨な状態でした。それに石鳥谷小学校の図書室は会議室兼図書室なのですが、そこで育った保護者の方々は、みんなあの環境で育っているために、そういう図書室が当たり前と感じています。本の分類も、上に0とか1とかの分類はありますが、正確ではないのです。それは何のためにあるのかと先生に聞いたら「ああ、あれは合っていないの」と言われて、それは合っていなければならないし、小学校の国語の授業で図書館に行くので、図書室の本は分類ごとに整理されているということを学ぶのですが、もう学びもできないような図書室でした。それで私は、変えなくてはいけないと思って、やはり0だったら0番、1だったら1番、該当の本棚のところに行けば、自分が読みたい本があるという、正しい分類にしなければいけないということを感じている保護者の皆さん、PTAの方々に声をかけて、知彌先生（坂本会長）や桂さん（東和図書館長）に協力してもらい、何故かよくわからないのですが、学校に「ボランティアがしますからどうかさせてください」と頼んで。この頼み方が正しかったのか、やり方が正しかったのかわかりませんが、そういうやり方で、図書整理を夏休みに実行することになったのですが、学校から参加したのは、図書担当の先生一人と副校長だけでした。他の先生たちは、ノータッチです。それでボランティアとPTA（PTA会長や役職にある方）で……私もそのときPTA役員だったと思いますが、全部本を取り出して空っぽにし本棚を拭いて、そして桂さん（東和図書館長）が捨てる本や残す本を分類し、残す本は新たにきちんと並べかえて配架するという作業をしました。それは二日間でしたが、今度はラベルです。ラベルが正しくない。花巻図書館の絵本は『E』とな

っていますよね。納入される本は 933 とか 913 とかの文学で来る、それをまた新たに『E』に貼りかえる、そういう作業も加わって、本当に大変でした。二年以上かかったと思います。もう毎日のように、「あなた今日も来ているの」「学校に勤めているみたい」といった感じでしたが、もう手をかけてしまったから、やらざるをえない、途中で投げ出すことができない。やり始めたから全部最後までやろうということでやりましたが、本当にそれがボランティアの仕事だったのか、私がやることだったのか、今も疑問は持っています。ただ、私たちがやったからこそ、娘や娘を取り巻く子どもたちやそれから続く在校生の子どもたちのためにはなったという事実だけが、私を支えるのですが、本当に子どものそばにプロがいない。これだけ”読書推進をしよう”「子どもに本を」「子どもに本を」と言っているわりには、子どものそばにいるのはボランティアです。ボランティアは、司書でも学校の先生でもありません。本当に素人がやっています。それで読書推進って言うのは……子どものそばにいるのがこんなに素人なのに本当に読書推進ができるのかと今もって疑問です。(菊池) 先生から今お尋ねがあったので答えましたが、私がこれを言っている話しだったのかどうなのかわかりません。

(○坂本会長)

私が振ってしまいました。でも、結果として、学校の図書館が見違えるようになって、子どもたちも利用しやすくなったことは事実です。

(○佐藤委員)

それは、私がリーダーとしてやっていた時、私が声をかけた人たちがやっていた頃はそうでしたが、私も小学校のボランティアは数年前に辞めてしまいました。それは赴任してきた先生が、「ボランティアというのは、やりたい人がやるのでしょう。やりたい人がやるからボランティアなのでしょう。」学校はボランティアに対して「こうしてください、ああしてください」ということは言いません。「どうぞおやりになってください。」「学校はボランティアに対して、そういうことは言いません」とおっしゃる先生でした。そうすると当然ボランティアは、その先生のそういう一言のために、「じゃ、やめようか」「いいよね、やらなくて」ということになります。そして、もう見る影もないことになっていると私は思っています。

(○坂本会長)

ボランティアの実態と、それから学校の図書館の普段あまり見ることもないようなところをお話いただきました。

(○佐藤委員)

保護者の方々は、学校の図書室がどういう現状かというのは知らないと思います。学校の図書室というイメージを豊かに持っていると思いますが、どういう悲

惨な状態で、大人の手が加わってなくて雑然としているかということを知っている人は、ほんのわずかだと思います。

(○坂本会長)

学校図書館に専門の司書さんがいれば、本当に解決することだろうと思います。

(○菊池委員)

そのとおりでございまして、本来であれば教育委員会のほうで、各学校に司書さんが配置されれば、もちろんそれが一番の望みなのですが、今もお聞きしながら、幸いという言い方は不謹慎かもしれませんが、当（湯口小）学校は、とても図書館らしい図書館にしております、これは地域コーディネーターさん等のおかげです。先ほども言いましたように、（その地域コーディネーターさんが）いらっしやなくなるとやはり不安、どうなるかわからないという部分がありまして本来教育委員会の分野なのかもしれませんが、そこが公共図書館とどういう連携を取ればいいのかという部分で、今おっしゃったように、やはり学校側として子どもたちをどう育てたいかという方針や願いのもとで、ボランティアさんを学校側で募って、あるいは図書に詳しい方を養成してもらうために学校が動きながら、公共図書館にどのように連携を取って教えてもらうとか、研修の機会を設けてもらうとか、そういった働きかけをしていかなければいけないと思っていますのでそういう意味での連携を是非取れるようにしていきたいというように今改めて思いました。

(○坂本会長)

その辺のところ、事務局からお願いいたします。

(○梅原花巻図書館長)

学校とボランティアさんと図書館が本当に連携していかなければいけないことだと思っております。定期的に図書館から学校へ職員が行けるといいのですが、図書館も職員数がそれほど多くない中で運営しておりますので、いつも行くということは難しいのですが、例えば、今、どういうことができるのだろうということと取り組んでいることが、資料1の4頁目に花巻図書館の出前講座“図書の修理教室”とありますが、これは市内の小学校の先生と、図書室に入ってらっしゃるボランティアの方が、修理の仕方を勉強したいなということで、お声をかけていただいて、図書の修理方法を当館職員が小学校に出向いて行って教えたものなのですが、同じような形で、日程を前もって調整して本の整理方法などを教えることはできるのではないかと。実は昨年度からこのようなことをできないかということで、学校図書館支援員の先生ともお話しはしていながら、なかなか実現できていない部分はあるのですが、定期的に司書の持っている知識、本の修理や本の整

理の仕方などを学校図書館へ出向いて、ボランティアさんや先生方がいるところでお伝えして、それを生かして図書室づくりをやっていただけるような、そういうことを考えていきたいと思います。また、先生方やボランティアさん方のスキルを高めていこうということで、スキルアップ講座を開いておりますので、そちらも利用していただければと思います。よろしくお願いします。

(○坂本会長)

はい。教育委員会のほうにも、専任の司書を配置してもらえるように、粘り強く、言い続けたいと思います。はい、ほかにはございませんでしょうか。はい、熊谷委員さん。

(○熊谷委員)

東和町には統合したので小学校が1校しかありませんが、新しい小学校ができましたので、とてもきれいになっております。大体毎月一回ずつ、8時15分から30分まで、図書ボランティアが読み聞かせということで1年から6年までの教室に入ります。今日も、私も門馬（委員）さんも行ってきました。読み聞かせのあとに、お時間のある方は、図書のお医者さんをやって、学校の図書をきれいにしております。そういう面では、東和小学校は進んでいるのかなと思います。ただ中学校がどのようになっているかはわかりません。私たちボランティアが、どんどん学校に入り込んでいっていいものかどうかともわかりません。東和小学校では「来年度も読み聞かせをやりたいのでよろしくお願いします」と言ってくれるので、私たちは快くやっているのですが、本当は中学校まで行ったらいいのかなのか、今はわかりません。

(○坂本会長)

中学校の先生、どうでしょう。ボランティアは、どのようにすればよいでしょうか。

(○阿部委員)

学校に入っただけなのは、ものすごくありがたいですが、今お話を聞いていて感じるのは、学校とボランティアさんとの意思疎通がうまくいくか、いかないか、うまくいけばすごくいい状態になるのだろうなど。その最たるものが、ボランティアで入っているわけではないと思いますが、秋田県に東成瀬村という学力がとても高いと有名なところがあるのですが、東成瀬村の小中学校、どちらの図書館もものすごいです。図書館だけにとどまらずに、学校内にいつでも本を読めるような環境づくりがされているようなところを目指しながら、学校側のほうでもボランティアさんを募るときには、東成瀬村のようにはいかにしてもこういった形に図書館を作っていきたいというようなことを上手く連絡が密にとれていれば、学校としてもボランティアさんに入っただくことは非常にあり

がたいですし、生徒たちにとってもいいことなのだろうなというように思っています。どちらかだけが一方的に動くのではなくて、一緒になって話し合いながら、どういうものを作っていきたいのかというビジョンを持ちながら進めていくことが大事なのではないかというように思っています。学校としてはボランティアさんに入っていただくのは、ありがたいことだと思っています。

(○坂本会長)

大歓迎というように、本音が聞くことができました。他にはございませんでしょうか。

(○佐藤委員)

ボランティアは、やはり必要だから、必要なことだと思うから、お母さんたちはみんなボランティアをしようと、「私たちがやらなければほかにやる人がいないだろう」「私たちがやらなければならぬだろう」と思って、卒業生のお母さんも地域の人たちも、自分の子どもがその学校にいなくても、“やりたい”“やろう”と思って、集まっているのだと思うのですが、そのボランティアに対して、「被災地だってそうでしょう。やりたい人がやるのでしょ。」というようなことは、正しくない学校側のお言葉だと私は思うのですが、そう言われてしまうと、その先生に対して「いや、ボランティアっていうのはね」というのを誰が語ってあげられるのか、誰が教えてあげられるのかと思うわけですね。でもその先生は、そこを去っていきます。地域のお母さんたちや、ボランティアはずっとそこにいて地域の子どもたちを育てるために、一生懸命真心を持って、本と子どもの間に入って、仲立ちしたいと思っています。そんなお母さんたちの気持ちを、何年間かしかいない、全く地域とは関係のない赴任して来る先生がそのお考えだと、全くその学校に地域支援が行き届かなくなってしまうし、先ほども先生がおっしゃいましたが、どうやって学校側とボランティアと図書館と、そこはもう、人格とか個性とかを超えたところで、一つの考えを持たなければ、子どもの読書推進は難しいなと思っています。

(○坂本会長)

はい、ありがとうございます。ご意見頂戴いたしました。

それでは、二つ目の議題を閉じさせていただいてもよろしいですか。それでは3番目に移りたいと思います。「新花巻図書館複合施設整備事業構想について」市川部長お願いいたします。

(3) 新花巻図書館複合施設整備事業構想について

- ・新花巻図書館複合施設整備事業構想について、市川生涯学習部長から説明。

(○市川生涯学習部長)

皆さん今日はお忙しいところありがとうございます。少しお話しできるようになりましたので、ご説明をさせていただきたいと思います。今日は新しい図書館の整備に当たってアドバイザーとしてお願いしております富士大学の早川先生も同席されておりますので、ご紹介いたします。

平成 29 年 8 月に新花巻図書館整備基本構想を策定しまして、それ以来、建設場所として花巻駅前がふさわしい場所だとして説明してきましたが、まだ具体的にはお話しできないというご説明もしてきたところでございました。このほど J R 東日本が所有している土地について、J R 東日本盛岡支社と少し調整がつきましたので、1 月 29 日にまずは市議会に図書館複合施設整備事業構想の概要をご説明し同日、市長も定例記者会見において同構想を公表したものでございます。この構想につきましては、市民の皆さんの意見も聞きながら、具体化を図っていききたいというものでございます。構想についてご説明いたしますと、場所は“なはんプラザ”西側の現在スポーツ用品店がある区域、J R 東日本が所有している土地であります。その土地を借りまして、図書館を作りたいという案でございます。そして、図書館は、市が出資するまちづくり会社と S P C（特定目的会社）による公民連携手法を採用し、賃貸住宅やテナント床を有する複合施設として建設、併せて、なはんプラザ北多目的広場の整備と、南駐車場の立体駐車場化を計画しています。わかりやすく申しますと、図書館複合施設というものを作りたいのですが、図書館は市営の図書館ですので、市が所有します。そのほかの住宅やテナントは、S P C（特定目的会社）が所有。この特定目的会社は民間ですが、この会社は市が主導して作ります。簡単に言えば、第三セクターというようなものです。次に複合施設整備予定地として、J R 東日本から借りる用地についてですが、2,400 ㎡ほどの場所に建設し、期間 50 年の定期借地契約を結びたい、土地の賃料は不動産鑑定士の鑑定評価に基づき、協議して決定したいというものです。現段階では、令和 3 年末までの契約を目指していますが、もう少しかかるのではないかと事務レベルでは思っているところであります。目安として令和 5 年度中に図書館を開館できればいいなという感覚を持っております。用地上の建物というのは今のスポーツ用品店ですが、これは S P C（特定目的会社）が、解体をするという内容でございます。次に施設整備の手法ということで、P P P と書いてありますが、簡単に申しますと紫波町のオガールの例とほぼ同じであります。オガールは、建物の中に図書館がございますし、そのほかに公的な空間もあれば、民間の医院や喫茶店のようなテナントもありますし、産直も入っているような建物であります。そのオガールのように一体化して作るのですが、図書館は紫波町の所有となっているように、花巻市の所有で花巻市が直接運営するという形態を

とりたいという構想であります。市が出資する「まちづくり会社」とＳＰＣが金融機関から融資を受け、市の意向を踏まえて複合施設を整備して管理する。これはＳＰＣがそのビル全体を建て民間部分はＳＰＣが管理するという意味で、テナントや住居部分の建物はＳＰＣの所有となります。今まで、市民の皆さんからの声が多かったカフェなどの業務施設も、テナントとして入居が可能となるわけがあります。また、カフェ以外にもう少しテナント等も入れたいと考えているところですが、施設を建設する前にテナントを含めて市場調査等を行いたいと思っております。よくあるパターンですが、テナントスペースを作っても、テナントが入らないと失敗することになりますから、そういう状況をしっかり調査して、実施したいと考えておりますので、あまりテナントスペースは大きくないものと考えていただいて結構です。「図書館を含めて施設はＳＰＣが一体的に整備」とありますように、図書館を含めて建設をいたしますし、ＳＰＣが市の意向を踏まえて設計・施工を行い、公募を基本として事業を実施いたします。「図書館部分は市が求める水準でＳＰＣに建設させ、区分所有権はＳＰＣから市が購入し」つまり、建設後に図書館部分を市が買い取るということです。ただし、その発注に際しては市の水準で、どういうものを入れて、どういう設備がほしいということを決めて行うということで、整備後の図書館運営も民間に委託するのではなくて、市が直接行う方針であります。事業を具体化するためには、オガールを実施している株式会社オガールにテナントが入る見込みの調査やＳＰＣが金融機関からの融資と市の出資で整備・運営していけるかという計算などの調査を委託して、図書館を含めた全体プランや運営に関する方針等を調査してもらい、来年度には、今回の構想について、市民を対象とした意見交換会等を開催して、皆さまからのご意見をお聞きしながら、計画を組んでいきたいと思っておりますので、そのあたりの時間は、目安として令和５年度中に完成できれば、という状況であります。

図書館の財源につきましては、国の補助金が入ります。これは、前々から申し上げておりましたが、駅東側の中心市街地に建てれば補助がもらえるというものでございます。今月２月からは、新花巻図書館整備推進プロジェクトチームに副市長も交えまして、建設について検討を始めている状況であります。全体の構想が大きくなったため、生涯学習部で今まで図書館部分はやっておりましたが、建設部内に周辺整備室を設けて、プロジェクトチームのメンバーだった、生涯学習部、建設部、都市政策課等のメンバーを入れた形でやっていこうというものであります。最後に米印で記載してあります駅東西を結ぶ中央通路、駅を橋上化するという構想もございますが、これは図書館とは別にＪＲと協議をしているという状況であります。右頁の図をご覧くださいますと、今地下道がございます西地区とのこの通路も古くなっているということもあり、これを上に、橋上にして通路

をつけたいという計画であります、これについてはこれからと考えておりました。右頁上には「施設整備のねらい」ということでいろいろ書いておりますが、以前にも申し上げておりましたが、この場所が駅利用の多い高校生に利用されやすいというのも一つですが、何よりも中央図書館という位置づけから、電車でも来やすい、バスターミナルもある、タクシーも、まず待っている状況の場所でもありますので、そういう場所が一番来やすいだろうということでもあります。また、車では少し来づらいという話もありましたが、車を考えますと駅に続く北側、東側の道路は、実は融雪道路になっていますので、冬季間を考えますと、やはり雪がないところというのは、我々も運転しやすいと思っておりますし、車でも行きやすい場所と考えます。そうなりますと、やはり利用されやすい図書館、わかりやすい図書館としては、この場所が最適ではないかということでもあります。あと右頁下に、図書館整備の基本構想、29年の8月に皆さまからご意見をお聞きしながら、決めましたもの、図書館協議会の皆さまと考えて、作った方針であります、この方針に基づきまして、具体的な図書館の施設や規模など、どういうものが必要かという計画を今後作りたいと思っています。今の段階で素案ができているのですが、それを早川先生にご指導いただきながら、そして委員皆さま方からのご意見、市民の皆さんからのご意見も踏まえて、全体の構想を今年一年ぐらいかけて作っていきたいというようなものでございます。以上で説明を終わりますが、ご質問あるいはご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

(○坂本会長)

はい、ありがとうございました。まず、ご質問から。市川委員さん。

(○市川委員)

図書館の建設については、図書館協議会の場合でも、かなり前から話しをお伺いしてきたわけですが、今聞いたお話しの中には図書館だけでなく、複合的な、今まで話題にならなかったような新しいことがたくさん出てきています。例えば、住宅やテナント。それから、場所については、何回か前の協議会から、駅付近のようだという話を聞いていたのですが、駅付近の借地とのこと。これはかなり高価なものなのだろうなと。このような新しい要素が、今ここに図書館複合施設整備事業構想として出てきているのですが、平成29年に作成した新花巻図書館整備基本構想も当然、基本的に盛り込まれるものだろうとは思いますが、2,400㎡という敷地のことなど総合的に考えると、図書館そのものが何となく縮まっていくような感じもします。例えば図書館の部分は、全面積の中でこのくらいの割合にするとか、今お聞きできる考えを伺っておきたいと思っています。

(○市川生涯学習部長)

現段階でお話できる部分としては、まだしっかりとした計画ができていないので面積等は決まっているわけではないのですが、概ね図書館部分は4,000㎡ほどを計画したいと思っております。一関市の図書館なども4,000㎡を超えているぐらいの規模ですし、今の花巻図書館は1,300㎡ぐらいですので、同程度の市の規模の大きさではないかなと思っておりました。次にテナント部分ですが、テナントはそれほど大きくないというように、予想しております。たくさんのテナント申し込みがあれば別なのですが、カフェは要望がありますので、入ってもらいように努力したいと思っておりますし、そのほかにテナントの希望があれば入っていただくということですので、あまり大きくないのだろうなと考えられます。あと住宅というのは、やはり驚かれるかもしれませんが、都市部においては、図書館の上に住宅があるという例がございます。公営の住宅が上部にある例もありますし、民間の住宅の例もあります。あるいは分譲マンションという例もございます。面積は、市川委員がおっしゃったような図書館が小さくて住宅が大きくなるというイメージではなく、住宅のほうはかなり面積的に小さくなるだろうと思っております。ただ、その部分を民間で出資して、民間がテナントあるいは、住居を作れるような事業となるのであれば、まちづくりの観点からも少し役立つかなというようなことでございまして、何10部屋、あるいは10階以上というようなビルとはならないと思っておりますが、そのあたりも需要を調査してみてもあります。入居希望の可能性が多いというのであれば別ですが、現段階ではそれほど、民間部分が大きくなるとは考えておらず、図書館の部分のほうはかなり大きいたらうなというように考えております。

(○市川委員)

図書館部分を4,000㎡ぐらいとおっしゃいましたが、施設の総合的な面積は、大体どの程度になるのですか。

(○市川生涯学習部長)

敷地面積が2,400㎡のところに、4,000㎡規模と考えています。つまりは二階か、一部三階、そういうような規模かなと思っておりますし、その上に住宅がつくとしても、住宅もそんなにたくさんではないと先ほど申し上げましたので、数階、ただ、そこは需要を調査してみないとわからない状況であります。

複合施設に住宅ということは、やはりいきなり感があつたかもしれませんが、構想の中でも他施設との複合化や、民間との連携も含めて検討して、というような書き方をしております。実は平成29年度から30年度にかけて調査をしておりまして、その中では、例えば、シネマコンプレックス、映画館をたくさん入れるような施設はどうか、チェーン店のレストラン、喫茶店を入れるとどうかなど、

住宅メーカーに聞いてみたという経緯がございますが、中央の大手は少し難しいというようなお返事をいただいていた中でいろいろ検討し、オガールからのアドバイスもいただき、地元のテナントを入れたり、住宅を少し配置したりする可能性は、あるのではないかと、この構想を考えているということでございます。

(○坂本会長)

他にご質問はありませんか。

(○白藤委員)

新しい図書館にいろいろと期待しているのですが、何よりも今、全国的にも子どもたちの利用が活発になるような、そういう性格を持っている図書館が増えております。もう一つ、やはり青少年層の学生たちも、楽しみながら利用できるような性格を新しい図書館に期待したいと思っております。しかし、実際、市民の関心が本当に高まっているかということには疑問があります。そういう点で市民にいろいろな意見を寄せてもらうような工夫をしていただきたいと思います。意見交換会等を開催するということでございますけれども、今までにも十分アンケートはとっていると思います。それらの中身をもっと精査して、さらに四つの図書館の職員の皆さんの希望や意見なども集約して、反映していただければいいかなと思っております。

そのなかでただ一つ疑問があるのは、複合施設という部分で、果たして賃貸住宅の需要があるのか。私から見れば、市内の住宅事情は、結構充足しているのではないかと思いますけれども、賃貸住宅ではないほかの文化的な、あるいは半分娯楽的な、皆さんが楽しめるような性格の施設を考えられないものかということ我希望として申し上げます。

(○市川生涯学習部長)

皆さんのご意見をこれから聞いて、進めていきたいと思っておりますし、白藤委員がおっしゃったとおり、市民の関心が高いかどうかということは、一定層の方の関心は非常にあると思うのですが、なかなか関心のない方もいらっしゃるような気がしますので、そのあたりを少し盛り上げながら、ご意見を広く聞ける機会を作っていきたいと思っております。例えば、高校生などの若い人から意見を聞いたり、子ども連れのお母さん方に意見を聞いたりしていきたいというように考えております。

住宅につきましては、今、花巻市内だけでなく、非常に賃貸の住宅が建っている状況でありまして、それらを踏まえて、駅前に、なおかつ図書館の上に住宅を建てるという発想を考えてみたわけですが、案外、住みたいと思う方もいらっしゃるのではないかと思います。まさに情報を何でも持っている図書館が、自分の家の近くにあるということであれば、非常に魅力があるのではないかと思います。

ことも考えられるわけですね。少しそういう新しい発想で、花巻市の市街地を活性化するという意味合いもありまして、いろいろ皆様のご意見をお聞きしながら進めたいと思っておりますので、何かありましたらまたよろしくお願いいたします。

(○佐藤委員)

はい。

(○坂本会長)

はい、佐藤委員さん。

(○佐藤委員)

話しが前後しますが、事業計画の概要にもあるとおり図書館によって本の冊数が違います。2019年に全国の絵本専門店や書店児童書売り場担当者3,000人にアンケートして1番から10冊を決めた「MOE絵本屋さん大賞」というものがあるのですが、その本を花巻図書館では7冊持っていて、東和図書館では1冊、大迫では2冊、石鳥谷では2冊持っているということを、インターネットの検索で調べられますし、私が読みたい本がどこにあるのか、しかもそれが開架書庫にあるのか、閉架書庫にあるのかということも、全部自宅にいてスマートフォンで見ることができるような時代が、今来ていますよね。そして、読みたい本が花巻図書館になかったら、あるいは花巻管内になかったら、他所の図書館から相互貸借して借りするという感じで、読みたい本が明確に決まっている人は、検索して「この本予約します」というような借り方をしている人も、みんなそれぞれがそれができる、その本がどんな粗筋で、誰が書いているかという評価まで、絵本ナビなどで見ることができる状態なので、私は石鳥谷にいますが、花巻図書館の本を、そういう、調べる・検索で予約をかけて、取り寄せて読むということが実際にできていて、その花巻図書館が、今狭いですし、複合施設として新しく整備されるということにも、期待を持っている一方で、今閉架書庫に入っている本とか、石鳥谷図書館ではとても蔵書できないような、開架で置いておけない、開架にはない新しい本が花巻図書館の閉架書庫にはいっぱいあるという現状なのですが、そういう大きい図書館に（建設）して、児童室が子どもの部屋が大きくなって、また、そこにいっぱい本が入って、またそこでいっぱいになるとまた閉架書庫に入るというような、その閉架書庫に入った本は一体誰が借りられるのかということ、常に閉架にある、目に見えない、子どもの目には入らないけれどもいい本とかってというのが、陰に隠れているような現状なので、そういう大きい図書館、新しい図書館にすることを議論することも大事だけれども、書庫に入ってしまった本を、税金で買った本をどうやって、しまっておかないで利用されるように、働きかけるのかということも併せて議論していきたいなと思います。

(○坂本会長)

資料の活用についてという部分だと思います。(アドバイザーの) 早川先生お願いいたします。

(○早川富士大学教授)

富士大学の早川です。佐藤委員からのご質問について、ほかの図書館の例を用いてご説明いたします。私は、1994年から2004年まで一関市の図書館の仕事をしておりました。一関市の図書館で「グリとグラ」で蔵書検索すると50セットという物すごい数が出てきます。その本は、佐藤委員の御指摘のとおり、7割、6割が閉架書庫にあります。それは、先ほど菊池校長先生からも、学校図書館の支援の話しがありましたが、支援するためにスタンバイさせておいています。いつでも学校や保育所、幼稚園から要望があったときに、運び込めるようにという積算で全部冊数を計算しております。そして、一関市は、先ほど、菊池校長先生と佐藤(委員)さんからもご質問がありましたが、学校司書の全校配置が今年か来年あたりにはおそらく完了するかと思います。学校司書がいない学校はないという環境をつくり出しています。先ほど、学校図書館との連携のお話しがありましたが、佐藤委員からの質問は、全くそのとおりでして、きちんと学校を支援していくのだと。学校から要請があれば、「いつでも本を運び込みます」「司書も行きます」「学校司書の相談にも乗ります」というような、一つの例が一関市にあります。先ほど、市川部長から説明がありましたが、この場いろいろなご意見をお聞きしながら、新しい図書館には学校支援コーナーが必要ではないかと、そういうようなさまざまなご意見をいただきながら、新しい図書館を目指していければいいと考えております。閉架書庫に関しても、私は個人的に極めて重要だと思っています。私も、三つの館にすべて行っていますが、書庫はもうパンパンです。非常によくはない状況になっています。閉架書庫がいっぱいになると一番大事なオープンフロアの本の入れかえができません。そうすると、「石鳥谷図書館はいつ行っても本は同じだよね」「東和もいつ行っても同じだよね。つまらないよね」と。そうではなくて、新しい図書館で、三つの地区館の共同書庫の役割を持たなければいけません。書庫でパンパンになっている本を思い切って大胆に引き上げて、今の、三つの地区館の位置づけになろうかと思いますが、本の入替えができるように、「あっ石鳥谷の図書館変わったよね」「本もたくさん表紙が見えるようになったよね」というようにしていくことが非常に重要です。先ほど、市川部長がお話しされた、中央図書館の機能を持つというのはそういうことではないかと私は思っていますので、極めて重要だと思います。佐藤委員からのご指摘も、ごもっともかなと思います。菊池先生からのご意見も、まだ計画に反映されるかどうかはわかりませんが、個人的には学校図書館の支援は極めて重要だと思って

います。義務教育でありながら、自治体の姿勢によって、学校図書館の整備、教育環境に差が出るというのは、私はあってはならないことではないかなというように思っていますので、非常に重要なご意見が出たなというように感じております。

(○坂本会長)

早川先生ありがとうございました。教育委員会の職員に聞かせたいと思いました。

(○菊池委員)

関連してよろしいですか。

(○坂本会長)

はい。

(○菊池委員)

今日は是非、このことを話そうと思って来たのですが、箱物ではありませんが学校間と公共図書館とのネットワークを作っていただきたい。それは今、佐藤委員さんがおっしゃったような、すぐどこでもわかるような、ネットワークを新しい図書館を中心にして、心臓部として作っていただければ。すぐ検索できてすぐ運んでもらえるというようなネットワークの構築を是非お願いしたいです。

(○坂本会長)

ソフトの部分のご意見が出ました。他にはございませんでしょうか。

(○市川生涯学習部長)

今回、構想ということで、まずは皆さんにお示ししたというものでありますので、これから各団体等で、もしご要望がありましたら、ご説明にあがることもいたします。また、お帰りになってから、何かご意見がありましたら、市役所生涯学習課、あるいは図書館でも構いませんので、言っていただければ大変ありがたいと思っております。これからまず皆さんで作っていくという考えでありますので、いろいろな機会でご説明させていただきます。また、図書館協議会におきましては、しっかり進み具合をご説明していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(○坂本会長)

いろいろなところで議論していただいて、市民が使いやすい、よりよい図書館ができるように願っております。まだまだ構想の段階ですから、いろいろなところで議論していただいて、ご意見をお寄りたいと思います。他にはございませんか。

(○菊池委員)

すみません。情報共有して終わりたいと思います。既に、岩手日報等でご存じ

かと思えますけれども、桜台小学校6年生の児童が今年度、読書感想文コンクールで文部科学大臣賞を取りまして、一月に東京で表彰式がありましたけれども、そういう子が花巻市内で頑張っています。例年、県の優秀賞もとっていますし、今年は全国の高学年ではトップですので、そういう子どもたちをさらに育てて行きたいと思えます。

(○坂本会長)

はい。うれしいニュースありがとうございます。やはり図書館は利用されて何ぼだと思えますので、そういうような図書館を目指したいと思えます。よろしく願いいたします。議題のほうは、これで終了してよろしいですか。それでは、事務局にお返しいたします。

4 その他

(○久保田花巻図書館副館長)

はい、ありがとうございました。それでは、あと特に何かなければ、終了したいと思えます。

5 閉 会（久保田花巻図書館副館長）